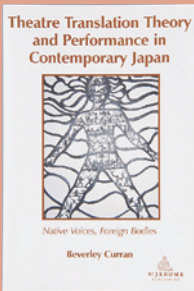


# Academic Library

著者自らが新刊を紹介します。



## 「Theatre Translation Theory and Performance in Contemporary Japan: Native Voices, Foreign Bodies」

文化創造学部教授 ベヴァリー・カレン  
▶ 23.2 × 15.6 cm / 159ページ / Manchester: St Jerome Publishing / 4,449円 / 2008.11.12発行

▶ 現代の日本における演劇翻訳・翻訳演劇について。そしてアフリカ系アメリカ人の英語、英語の中でもカナダとオーストラリアの先住民の言葉を、日本語翻訳でどう表現するか、それを日本人の俳優はいかに演じるか、翻訳の観点から考察した。



## 「子育て支援を考えるために」

医療福祉学部教授 須永進  
▶ A5判/238ページ/蒼丘出版/2,205円 / 2008.12.15発行

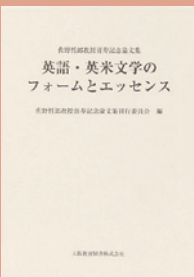
▶ 福祉や医療、教育など幅広い領域に展開しつつある子育て支援について、基本となる理念や動向をはじめ、その具体的な内容と方法、さらには実践例を取り上げ、全体として子育て支援への理解とこれからを考える上で参考になるような構成になっている。



## シリーズ朝倉『言語の可能性』7 「言語とメディア・政治」

現代社会学部教授 五島幸一（共著）  
▶ A5判/247ページ/朝倉書店/3,800円 / 2009.3.30発行

▶ 本書は言語とメディアと政治という3領域の相互依存関係から、ことばの可能性を考察したものである。第Ⅰ部では「言語とメディア」、第Ⅱ部では「言語と政治」を論じている。ニュース報道におけることばの特徴を考察した「ニュース報道の言語表現」を担当した。



## 「英語・英米文学のフォームとエッセンス」

文学部教授 久野幸子  
▶ A5判/546ページ/大阪教育図書 / 10,500円 / 2009.3.31発行

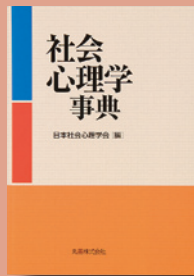
▶ 京都大学名誉教授佐野哲郎先生の喜寿を祝う記念論文集。英文学、とくにブロンテ三姉妹の作品に関する論文が大半を占めるが、ロレンス、エリオット、ディケンズ、ポウエンなどに関する論文も収録されている。筆者は「シャーロット・ブロンテと留学体験」という論文を載せた。



## 「現代教育概論」

▶ 文学部教育センター教授 堀尾幸平  
▶ A5判/152ページ/日本学術出版 / 1,050円 / 2009.4.1発行

「いま、教育とは何か」を改めて考えるためのテキストとして編集。教育と法規、教育理念、教育箴言、日本の教育、教育評価等、全8章構成。ほかに江戸期「女大学」、近代学校系統図、著者の国民学校在学中の成績表（教育手帳）、最新の教育採用試験問題等、資料も豊富。



## 「社会心理学事典」

（日本社会心理学会編）  
コミュニケーション学部教授 高藤和志  
コミュニケーション学部准教授 小川一美  
▶ A5判/684ページ/丸善/21,000円 / 2009.6.20発行

▶ 日本社会心理学会創立50周年記念出版で、社会心理学の歩みから最新研究成果までを網羅し解説した中項目事典である。日常生活の中で起こる人の心と行動の「不思議と仕組み」に関して、13分野300項目が見開き2ページずつ解説されている。図版も多く、読み物としても活用できる。



## 「贅沢の条件」

現代社会学部教授 山田登世子  
▶ 新書/202ページ/岩波書店/700円 / 2009.7.18発行

▶ 贅沢と富はどうちがうのか？ 中世修道院文化からココ・シャネル、白洲正子まで、日仏の贅沢の文化史をたどりつつ、現代社会の贅沢を問う。



## 「幸せな高齢者としての生活」

（唐沢かおり・八田武志編著）  
コミュニケーション学部教授 吉崎一人（分担執筆）  
▶ A5版/243ページ/ナカニシヤ出版 / 2,800円 / 2009.7.20発行

▶ 高齢者として幸せな生活を送るための指針となることを目指し、高齢者として知るべき特性をまとめたものである。心理学、医学の視点から、認知機能、身体機能、社会生活の3点に焦点を当てて、加齢に伴う変化や高齢者が抱える問題について論じている。筆者は第2章「注意する力」を分担執筆した。



## 「21世紀の教育を拓く —九州大学 教育改革の試み—」

キャリアセンター助教 松尾哲也（共著）  
▶ A5判/227ページ/西日本新聞社 / 1,995円 / 2009.8.8発行

▶ 本書は、九州大学の教育改革の取り組みを広く全国の大学や社会一般に紹介し、その情報を各大学の教育改革に役立てていただくことを目的としている。執筆を担当した第3章では、文部科学省の委託事業として実施された若手研究者のキャリア支援事業について紹介している。